



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ③

年末手当の**安定的支給ベースは2.9ヶ月** 業績悪化を理由に**減額はできないはずだ！**

住宅や車などのローンを抱えて生活している場合、ボーナスを減額されるとなれば生活に大きな影響が出てしまいます。ボーナスは決して高くはない基本給を補填する性格が強いからです。減額を受け入れるべきではありません。組合員や家族の幸せを追求するならば、闘わなければいけません。そして皆さんも危機意識を持って、所属組合に意見を言わなければいけません。

さて、過去振り返ってみればボーナスの支給は大きく変わっていないのが現実です。会社はこれまで、**夏季手当2.7ヶ月、年末手当2.9ヶ月を安定的支給ベース**とし、組合の要求を受け入れませんでした。業績は毎年のように上がってもボーナスは毎回3ヶ月前後の支給で、それを上回ることはありません。会社は、ここ数年「**業績給としての性格を勘案しつつも、業績の短期的な変動に大きく左右されることなく安定的に維持することが大切**」と主張していました。

つまり、**業績が悪くても年末手当は最低でも2.9ヶ月出す**ということです。

会社は、このように繰り返し言っているのですから、これを実行してもらおうではありませんか。賃金を抑制してきた結果、内部留保は充分あるのだから支払える体力はあるでしょう。赤字だからボーナス減額は仕方ないという風潮に流されてはいけません。JR東海労は、ボーナス減額を許さない姿勢を貫き、闘っていきます。

**JR東海労はコロナ禍を理由に労働者へ
我慢と犠牲を強いる会社を許しません！**